



今年の高校入試の分析からこんなことがわかりました！

合格者の社会の平均点は、53.3点

☆正答率(※)が高かったのは、各分野とも基礎的・基本的な知識を問う問題です。特に、地理的分野及び公民的分野の学習をとおして、知識及び技能の定着が図られています！



特徴的な問題を見てみましょう！

2 歴史的分野

2(4) 千穂さんは、カードDの下線部bについて調べていく中で、このころに多くの外国船が日本に現れていることを知りました。そして、「なぜアメリカは、日本へ開国を迫ったのだろうか」という疑問をもち、資料4、5を見つけて、下のような仮説を設定しました。資料4、5を関連づけて、**ア**、**イ**に入る適切な内容を書きなさい。

資料4 ベリーの航路と来航時の状況 (一部)

資料5 アメリカ大統領の国書の内容(一部)

- カリフォルニアから中国へ向かうわが国の船は多く、日本沿岸で捕鯨をしている国民も多い。遭難者は大切に保護してほしい。
- 蒸気船には大量の石炭が必要だが、すべて積み込んで行くことは不都合である。石炭と必需品の供給をしてほしい。

〔「ペリー提督日本遠征記」他より作成〕

千穂さんの仮説

アメリカが日本へ開国を迫ったのは、資料4、5から、大陸西部まで領土を拡大したことで、アヘン戦争後の**ア**をヨーロッパ諸国よりも有利に行うため、蒸気船で**イ**する航路の利用を望み、その中継地として日本を位置づけたからだろう。

<標準解答>

ア(例) 中国との貿易

イ(例) 太平洋を横断

<ねらい>

この問題は、資料を基に歴史的及び地理的な背景から、アメリカが日本に開国を求めた理由について、根拠を説明する問題でした。**ア**は、欧米諸国の産業革命という歴史的な背景から、**イ**は、アメリカの領土拡大という地理的な背景から根拠を説明する問題でした。

<分析>

正答率は、**ア**が33.8%、**イ**が29.6%でした。課題としては、日本の歴史の分岐点を、世界の歴史を踏まえた視点や地理的な視点から見る能力や、資料を基に考察し、適切に表現する能力が身に付いていないことなどが考えられます。

<提案>

授業では、基礎的・基本的な知識を活用して、欧米諸国における近代社会の成立やアジア諸国の動きなどを多面的・多角的に考察することで、日本の歴史の展開を世界の動きに関連付けるなどの工夫も必要です。



「分かる！・できる！」まで教えよう！(授業改善のkeyword)
各問いの出題内容・ねらい及び正答率は裏面をご覧ください！
詳しい分析は、報告書や県教育研修センターのHPをご覧ください！

(※)正答率については、合格者4,417人の中から、無作為に抽出した630人(14.3%)分のデータです。